

## 2019年8月期 決算サマリー

### 連結業績

(億円)

	2018年8月期		2019年8月期				2020年8月期		
	通期実績 (2017/9~2018/8)	上期実績 (2018/9~2018/2)		下期実績 (2019/3~2019/8)		通期実績 (2018/9~2019/8)		通期予想 (2019/9~2020/8)	
				前年同期比		前年同期比		前期比	
売上収益	21,300	12,676	+6.8%	10,228	+8.4%	22,905	+7.5%	24,000	+4.8%
売上総利益 (売上比)	10,499 49.3%	6,067 47.9%	+3.6% ▲1.4p	5,127 50.1%	+10.4% +0.9p	11,195 48.9%	+6.6% ▲0.4p	-	-
販管費 (売上比)	7,974 37.4%	4,334 34.2%	+7.4% +0.2p	4,209 41.2%	+6.9% ▲0.6p	8,543 37.3%	+7.1% ▲0.1p	-	-
事業利益 (売上比)	2,524 11.9%	1,733 13.7%	▲4.8% ▲1.6p	918 9.0%	+30.4% +1.5p	2,651 11.6%	+5.0% ▲0.3p	2,800 11.7%	+5.6% +0.1p
営業利益 (売上比)	2,362 11.1%	1,729 13.6%	+1.4% ▲0.8p	846 8.3%	+28.9% +1.3p	2,576 11.2%	+9.1% +0.1p	2,750 11.5%	+6.7% +0.3p
金融収益・費用 (売上比)	64 0.3%	12 0.1%	-	▲64 -	-	▲51 -	-	0 -	-
税引前利益 (売上比)	2,426 11.4%	1,742 13.7%	+5.5% ▲0.2p	782 7.6%	+1.0% ▲0.6p	2,524 11.0%	+4.0% ▲0.4p	2,750 11.5%	+8.9% +0.5p
親会社の所有者 へ帰属する当期利益 (売上比)	1,548 7.3%	1,140 9.0%	+9.5% +0.2p	485 4.7%	▲4.2% ▲0.7p	1,625 7.1%	+5.0% ▲0.2p	1,750 7.3%	+7.6% +0.2p

注：通期予想の金融収益・費用の為替レートは、8月末の1ドル106.4円を前提としております。

注：IFRS16号の適用により、2020年8月期の営業利益の予想には、約3%の押し上げ効果を見込んでいます。

### グループ事業別業績

(億円)

		2018年8月期		2019年8月期				
		通期実績 (2017/9~2018/8)	上期実績 (2018/9~2018/2)		下期実績 (2019/3~2019/8)		通期実績 (2018/9~2019/8)	
					前年同期比		前年同期比	
国内 ユニクロ事業	売上収益	8,647	4,913	▲0.5%	3,816	+2.8%	8,729	+0.9%
	事業利益 (売上比)	1,201 13.9%	676 13.8%	▲23.9% ▲4.2p	355 9.3%	+13.9% +0.9p	1,032 11.8%	▲14.1% ▲2.1p
	営業利益 (売上比)	1,190 13.8%	677 13.8%	▲23.7% ▲4.2p	347 9.1%	+14.6% +0.9p	1,024 11.7%	▲13.9% ▲2.1p
海外 ユニクロ事業	売上収益	8,963	5,800	+14.3%	4,460	+14.7%	10,260	+14.5%
	事業利益 (売上比)	1,206 13.5%	886 15.3%	+9.6% ▲0.6p	516 11.6%	+29.8% +1.4p	1,403 13.7%	+16.3% +0.2p
	営業利益 (売上比)	1,188 13.3%	884 15.3%	+9.6% ▲0.6p	504 11.3%	+32.2% +1.5p	1,389 13.5%	+16.8% +0.2p
ジーユー事業	売上収益	2,118	1,171	+10.7%	1,215	+14.7%	2,387	+12.7%
	事業利益 (売上比)	119 5.6%	141 12.0%	+56.1% +3.5p	140 11.6%	+381.1% +8.8p	281 11.8%	+135.4% +6.2p
	営業利益 (売上比)	117 5.6%	141 12.1%	+54.3% +3.5p	140 11.6%	+436.4% +9.1p	281 11.8%	+139.2% +6.2p
グローバル ブランド事業	売上収益	1,544	777	▲0.9%	721	▲5.0%	1,499	▲2.9%
	事業利益 (売上比)	62 4.1%	32 4.2%	▲2.3% -	7 1.0%	▲75.7% ▲2.9p	39 2.6%	▲36.6% ▲1.5p
	営業利益 (売上比)	▲41 -	31 4.0%	- -	5 0.8%	▲63.6% ▲1.2p	36 2.5%	- -

### 【決算ハイライト】

#### ■2019年8月期の連結業績：過去最高の業績、海外ユニクロ事業とジーユー事業が貢献

- ・売上収益は2兆2,905億円、前期比7.5%増、営業利益は2,576億円、同9.1%増と過去最高の業績を達成。特に、海外ユニクロ事業とジーユー事業の大幅な増益が貢献。
- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は1,625億円、同5.0%増。
- ・1株当たり期末配当金は240円を予定。年間の配当金は480円と、前期比40円の増配を予定。

■国内ユニクロ事業：暖冬の影響により増収減益。ただし、下期は2桁増益に転じる

- ・売上収益は8,729億円、前期比0.9%増、営業利益は1,024億円、同13.9%減と増収減益。暖冬による影響で上期は大幅減益も、下期は2桁増益に転じる。
- ・通期の既存店売上高は、同0.1%増。上期は減収も、下期は夏物商品の販売が好調で同3.5%増。Eコマース売上高は大幅増収。
- ・売上総利益率は、暖冬の影響や春夏商品の早期の在庫処分により低下。ただし、8月末の在庫水準は大幅に縮小。

■海外ユニクロ事業：大幅な増収増益、売上収益は初めて1兆円を突破

- ・売上収益は1兆260億円、前期比14.5%増、営業利益は1,389億円、同16.8%増。売上収益は初めて1兆円を突破。
- ・地域別では、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区が2桁の増収増益と、好調な業績が継続。韓国は減収減益。米国は赤字幅が大幅に縮小。欧州は、ロシアの好調な業績に支えられ、増収増益。

■ジーユー事業：増収増益、過去最高の業績を達成

- ・売上収益は2,387億円、前期比12.7%増、営業利益は281億円、同139.2%増と、過去最高の業績を達成。
- ・オーバーサイズのスウェット・ニット・Tシャツが数百万点を販売するヒット商品になる。
- ・早期発注や素材の集約により原価率が改善したことに加え、値引率が低下し、売上総利益率は大幅に改善。

■グローバルブランド事業：前期の減損損失計上により、営業利益は黒字に転じる

- ・売上収益は1,499億円、前期比2.9%減。前期に減損損失を99億円計上したことで、営業利益は36億円(前期は41億円の赤字)と黒字に転じる。
- ・セオリー事業は増収増益。プラステ事業は、出店による経費増で、営業利益は前年並み。
- ・コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業及びJ Brand 事業は赤字が継続

■2020年8月期の連結業績予想：過去最高の業績を予想

- ・2020年8月期の連結業績は、売上収益2兆4,000億円、前期比4.8%増、営業利益2,750億円、同6.7%増、親会社の所有者に帰属する当期利益1,750億円、同7.6%増を予想。
- ・1株当たり年間配当金は、中間配当金250円を含み、年間500円、20円の増配を予想。
- ・いずれのセグメントも増収増益の見込み。海外ユニクロ事業は、引き続き、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区の業績拡大を見込む。国内ユニクロ事業は営業利益が2桁増益となる見込み。

\*\*\*\*\*

業績概要

■国内ユニクロ事業：暖冬の影響により増収減益。ただし、下期は2桁増益に転じる

国内ユニクロ事業の当連結会計年度の売上収益は8,729億円(前期比0.9%増)、営業利益は1,024億円(同13.9%減)と、増収減益となりました。通期の既存店売上高(Eコマースを含む)は、同1.0%増でした。上期は暖冬による冬物商品の販売に苦戦し、同0.9%減となりましたが、下期はTシャツ、UT(グラフィックTシャツ)、UVカットパーカ、感動パンツなどの夏物商品の販売が好調だったことにより、同3.5%増となりました。また、Eコマース売上高は832億円、同32.0%増、売上構成比は前期の7.3%から9.5%へ上昇しています。売上総利益率は、暖冬の影響や春夏商品の早期の在庫処分により、同1.7ポイント低下しましたが、8月末の在庫水準は前年同期末比で大幅に縮小しました。売上高販管費率は、同0.4ポイント上昇しました。上期は在庫の増加やEコマース販売の拡大により物流費比率が上昇しましたが、下期はICタグ(RFID)の活用による業務の効率化で、人件費比率や委託費比率が低下しました。

### ■海外ユニクロ事業：大幅な増収増益、売上収益は初めて1兆円を突破

海外ユニクロ事業の当連結会計年度の売上収益は1兆260億円(前期比14.5%増)、営業利益は1,389億円(同16.8%増)と、大幅な増収増益を達成しました。売上収益は初めて1兆円を超え、売上収益営業利益率は13.5%と高い水準を継続しています。

地域別では、グレーターチャイナは、売上収益が5,025億円(同14.3%増)、営業利益が890億円(同20.8%増)と、大幅な増収増益となりました。ユニクロのLifeWearのコンセプトが支持され、No.1アパレルブランドとしてのポジションを確立できたことで、既存店売上高は増収となりました。Eコマース売上高は同約30%増と好調です。東南アジア・オセアニア地区は、売上収益は約1,700億円の規模となり、売上収益、営業利益ともに同約20%の増収増益と好調な業績となりました。韓国は、減収減益となりました。米国は、赤字幅が大幅に縮小しました。欧州は、売上収益が1,000億円となり、増収増益となりました。特にロシアが引き続き大幅な増収増益を達成しました。

なお、2018年9月にはオランダ初の店舗をアムステルダムに、2019年4月にはデンマーク初の店舗をコペンハーゲンに、同年9月にはイタリア初の店舗をミラノに、同年10月にはインド初の店舗をデリーにオープンし、好調なスタートとなっています。

### ■ジーユー事業：増収増益、過去最高の業績を達成

ジーユー事業の当連結会計年度の売上収益は2,387億円(前期比12.7%増)、営業利益は281億円(同139.2%増)と、過去最高の業績を達成しました。通期の既存店売上高は、マストレンドにフォーカスした商品構成に転換したこと、マーケティングを強化したことにより増収となりました。特に、オーバーサイズのスウェット・ニット・Tシャツは数百万点の販売を記録するヒット商品になりました。早期発注や素材の集約により原価率が改善したことに加え、値引率が低下したことで、売上総利益率が大幅に改善しました。売上収益営業利益率も11.8%、同6.2ポイントと大幅に改善しています。

### ■グローバルブランド事業：前期の減損損失計上により、営業利益は黒字に転じる

グローバルブランド事業の当連結会計年度の売上収益は1,499億円(前期比2.9%減)、営業利益は36億円(前期は41億円の赤字)と、減収増益になりました。増益となった要因は、前連結会計年度にコントワー・デ・コトニエ事業などで減損損失を99億円計上したことによります。セオリー事業は安定的に成長し増収増益となりました。プラステ事業は増収となったものの、出店による経費増で、営業利益は前期並みになりました。コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業及びJ Brand事業は赤字が継続しました。

### ■2020年8月期の連結業績予想：過去最高の業績を予想

通期の業績予想は、売上収益が2兆4,000億円、前期比4.8%増、営業利益が2,750億円、同6.7%増、親会社の所有者に帰属する当期利益が1,750億円、同7.6%増、基本的1株当たり当期利益は1,714.65円と、過去最高の業績を更新する見込みです。また、いずれのセグメントも増収増益となる見込みです。なお、1株当たり年間配当金は、中間配当金250円、期末配当金250円を合わせて500円、前期から20円の増配を予想しています。

海外ユニクロ事業は、順調な業績拡大を見込んでいます。円高による為替の押し下げ影響を約5%見込んでいますが、為替影響を除くと、増収ペースは前年と同水準の予想です。エリア別では、グレーターチャイナは引き続き好調で、為替影響を除くと2桁の増収増益の見込み、東南アジア・オセアニア地区は大幅な増収増益を継続する予想です。韓国は大幅な減収減益、欧州は増収増益、米国は黒字化を見込んでいます。国内ユニクロ事業は、粗利益率、経費比率ともに若干改善する予想です。営業利益は2桁の増益となる見込みです。ジーユー事業は、通期で増収増益を見込んでいます。グローバルブランドはセオリー事業の安定的な成長、コントワー・デ・コトニエ事業の赤字幅縮小を見込み、増収増益の予想です。

IR情報 <https://www.fastretailing.com/jp/ir/> に決算データや各種リリースなどを開示しております。